

Takihyo

株主通信 第113期 中間 2023.3.1 > 2023.8.31



真の「タキヒヨーらしさ」で
さらに強い集団に

上期の業績について

2024年2月期の中間決算は、連結売上高267億円、連結営業利益1億6千万円、四半期純利益3億9千万円となり、前年同期比で減収となったものの、前年同期に果たせなかった営業利益、経常利益、四半期純利益全てで黒字回復となりました。中間決算における黒字化は4期ぶりであり、株主の皆さまにご心配をおかけしたことを改めてお詫び申し上げます。厳しい状況でも当社を応援し続けてくださることに心より感謝申し上げます。

今回の業績には、Revitalize Plan（黒字体質復活計画）に基づき実施した、希望退職や本社スペースの削減、海外拠点の統廃合といった大きな痛みを伴う施策が寄与しました。また、適正利益を確保できる商談を丁寧に積み上げる、お取引先さまと丁寧に対話をするという、当たり前のことを当たり前にやってきたことが今期の復調につながったと考えています。何よりも一緒に働く仲間たちのマインドが変わってきたことが大きいと感じています。

総合力を発揮するための組織へ

これまでの長い歴史で培ったノウハウを最大限に生かし、タキヒヨーとしての総合力を発揮するためには、さらなる組織の改革が急務であると考えています。縦割り組織から脱却し、部署を越えて組織横断的に強みを集結するための個々の取り組みは少しずつ増えてきましたが、時代の変化の速さに対応する

ためには変革のスピードを上げる必要があります。

その一環として、指揮系統を一つにして機動力を高める目的で、レディース、メンズ、リラクシングを扱う第1ガーメントグループと、ベビー、キッズを扱う第2ガーメントグループを統合いたしました。さらに、アパレル業界でも今後急速に進むであろうサステナビリティに対応すべく、専門部署を強化した上で横連携がしやすい組織に改編いたしました。今まで蓄積してきたノウハウを全社に波及させ、タキヒヨーとしての総合力を高めて参ります。

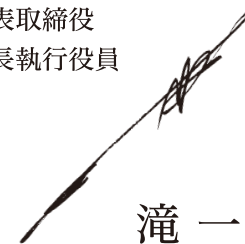
「人」こそが企業を形作る

当社の経営理念「夢のあるおもしろい企業を創り 心の豊かな社会をめざします」を実現するには何をすべきかを個々が考え、未知の領域でも果敢に挑戦していくのが「タキヒヨーらしさ」であり、その「らしさ」を形作っていくのは、やはり「人」であると考えています。そして、社員一

人ひとりが自分の中に持つ「タキヒヨーらしさ」を束ね、守り育てていくことが、私の重要な責務であると強く感じています。

まだようやく光が見え始めたところであり、今こそもう一度足元を固めて着実な一歩を踏み出さなければならない大切な時期です。株主の皆さまには、今しばらくタキヒヨーの復活を見守りいただき、私たちが真の「らしさ」を発揮する姿を応援していただければ幸いです。

代表取締役
社長執行役員



滝 一夫



タキヒヨー初の「総合展示会」開催

約40年ぶりの厳しい状況に直面する中、「強いタキヒヨー」を取り戻すために
全社一丸となって取り組んでいるRevitalize Plan（黒字体質復活計画）も折り返し地点に差し掛かっています。
復活の兆しが見え始めている今こそ、改めてタキヒヨーの強みを内外に向けて発信する場が必要であると考え、
7月にタキヒヨーとして初めて全社合同の総合展示会開催に至りました。

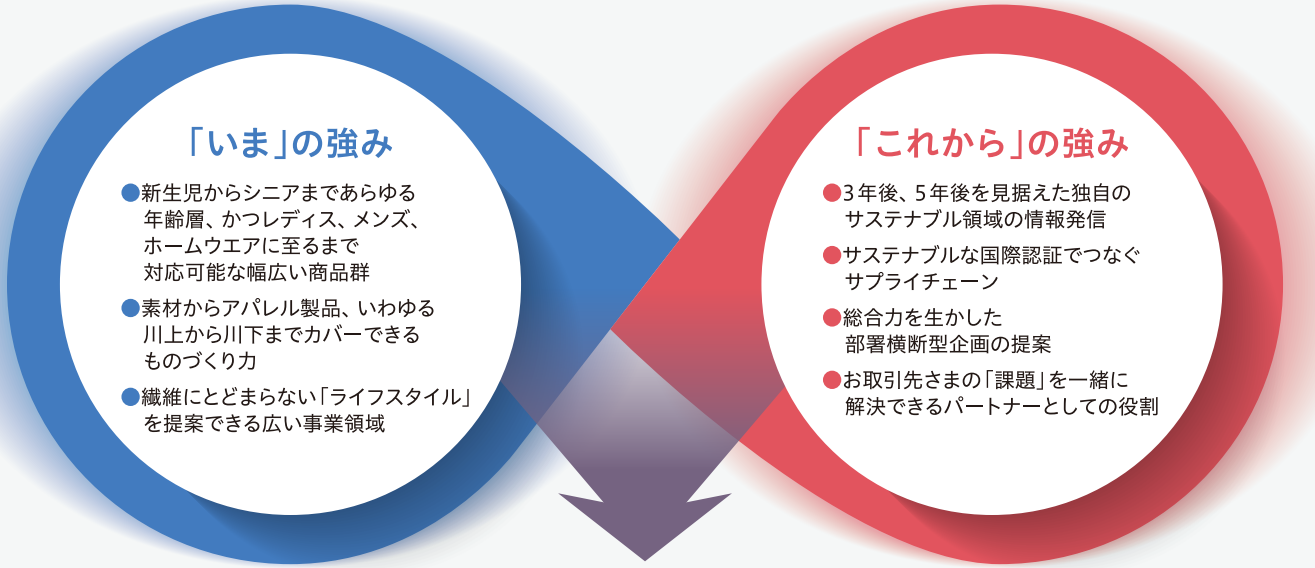
タキヒヨーの「いま」

タキヒヨーの企画提案の特徴は単品訴求型であり、アイテムごとのものづくりで圧倒できるところにありました。長年、この点が強みとして機能していた一方で、部署を越えた情報やノウハウの共有を困難にし、タキヒヨー全体としての成長を阻んでいた側面があります。

また、アイテムごとに細分化されたチームが個々にお取引先さまと商談するため、タキヒヨーに「何ができる

か」という全体像をお取引先さまに提案し切れていないという問題がありました。さらにコロナ禍が加わり、社会が急激に変化する中でコミュニケーションの在り方も大きく変容し、情報を取りづらくなっている状況でした。

そこで、今回タキヒヨーとして初の部署横断型の総合展示会を開催し、ボトムアップによる縦横斜めの接点を作ることで全社でシナジーを創出し、タキヒヨーの「いま」の強みと「これから」の強みを対外的に発信しました。



タキヒヨー「だからこそできる」価値の創造

お取引先さまの「課題解決」のパートナーとして

総合展示会には、お取引先さまにタキヒヨーの強みを示すという目的だけでなく、社内に対しても自分たちの強みや新しい可能性を発見する「気づきの機会」にしたいという狙いもありました。この初の試みは、社内的にも対外的にも、狙った成果を出せたと実感しています。

本来当社が有する幅広いアイテムを企画段階から自社で行える強みはそのままに、お取引先さまが抱える課題と一緒に解決できるパートナーとしての存在であることをアピールする場として、さらにブラッシュアップした総合展示会でタキヒヨーとしての発信力を高めて参ります。

執行役員
ガーメントグループリラクシング・カジュアルセクションリーダー 兼
ガーメントディレクションセクションリーダー 兼 EC販売チームチーフ
大場 雅仁

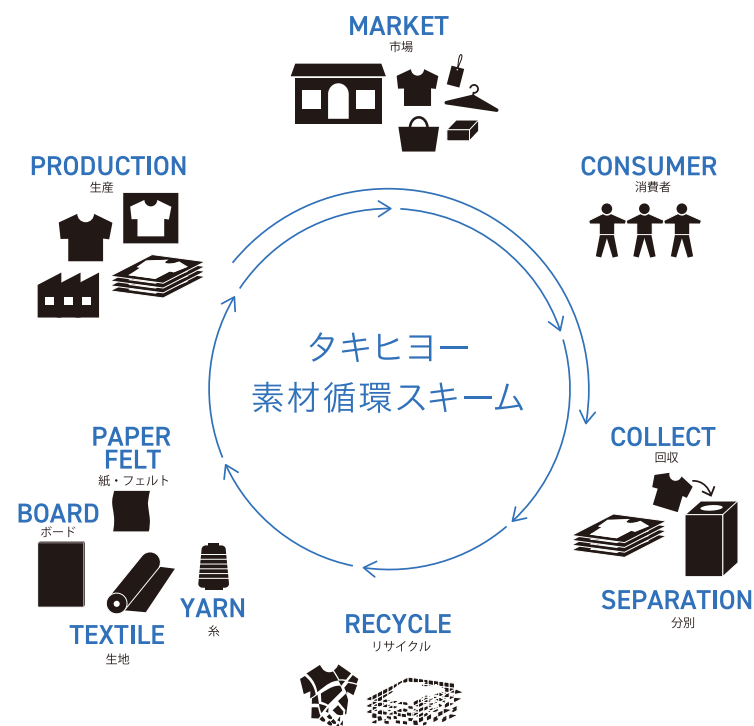




「NO WASTE PROJECT」の 現在地

世界中でサステナビリティの重要性が叫ばれる中、当社が身を置くアパレル業界でも徐々に取り組みが広がりつつあります。当社では2019年の専門チーム立ち上げ以来、積極的にサステナビリティへの取り組みを強化し、現在では「タキヒヨーに相談すれば何とかしてくれる」という課題解決のパートナーとして、お取引先さまにおける認知が広がりを見せているところです。

今回は、当社独自の素材循環スキームである「NO WASTE PROJECT(ノー ウェイスト プロジェクト)」を取り上げ、現在どのような取り組みに成長しているかをご紹介します。



NO WASTE PROJECT って何だろう?

「全て無駄にしない」をコンセプトに始まった素材循環スキーム。洋服を作る際にどうしても出てしまう裁断片や、消費者が着なくなった古着などを回収して、粉碎し綿状に戻したものを再度糸や生地、商品に生まれ変わらせて市場に戻す取り組み。当社では、中国スキームと日本国内スキームの2軸を確立しています。

NO WASTE PROJECTの現在地

「NO WASTE PROJECT」が本格的に始動してから3年、さまざまなお取引先さまとの協業が進む中でも株式会社スノーピーク(以下、スノーピーク)との取り組みは単なる素材提供ではなく、スノーピークユーザーを巻き込んだムーブメントに成長しています。

スノーピークの問題提起に応えるタキヒヨーのソリューション

自然との共生をモットーとしているスノーピークの洋服。「多くの人が最も日常的に着ているコットンこそリサイクルすべきではないか」という課題に直面した時に、解決の糸口となったのがタキヒヨーが提案するサステナブルソリューション「NO WASTE PROJECT」でした。「全て無駄にしない」というプロジェクトのコンセプトと、スノーピークの社会課題に対する想いが共鳴して生まれたのが「UP CYCLE COTTON PROJECT(アップサイクル コットン プロジェクト)」です。

第1弾のデニムパンツからスタートしたプロジェクトのストーリー性とユニークさはスノーピークの消費者の心もつかみ、店頭で回収した不要なコットン製品を素材として循環させ、再びスノーピークの店頭で商品として蘇らせる見事な循環を描くまでになりました。現在では年間を通した商品開発が行われ、循環がさらなる循環につながる成長を遂げています。

2022年にはプロジェクトの「棄てられない服」という視点の独自性が評価され、「UP CYCLE COTTON PROJECT」がグッドデザイン賞を受賞しました。

スノーピークとの取り組みが成功につながった要因は、顧客体験を創造できたこと。生活者が自ら店頭での回収に協力し、それが新たな製品の一部分として物理的に見える形で再創造されるという体験によって、自分も循環の一部であるという「共創」の価値を感じられたことが、「UP CYCLE COTTON PROJECT」を単なるアップサイクル商品にとどまらない取り組みに昇華させました。今回の経験を生かして、アパレル業界が構造的に有している大量生産・大量廃棄の問題に向き合いたいという我々の想いに共鳴してくれるお取引先さまや生活者を巻き込み、「NO WASTE PROJECT」と共にお客さまのサステナビリティへの取り組みをさらに大きく育てていきたいと考えています。

グローバルブランドグループ サステナブルセクション セールsteamチーフ 渡邊 晋平





挑戦者

—未来のために今できること—

vol 11

「ものづくりの拠点 TFC北陸工場」

一夢のあるおもしろい企業を創り 心の豊かな社会をめざします—
これがタキヒヨーの経営理念です。

「おもしろい」って何だろう? 「心の豊かな社会」ってどんな社会?
それを実現するために今、私たちは何をしなければいけないのだろう?
私たちは、その答えを見つけるために、これからのタキヒヨーのある
べき姿を考え、さまざまな挑戦を続けています。

今回は、長年にわたりタキヒヨーグループのものづくりの拠点として
ノウハウを蓄積し、時代の流れに合わせて変化を続けるTFC北陸
工場を紹介します。

コンバーター構想と国内縫製工場の盛衰

タキヒヨーが和装から洋装への転換を図り「ファッションコンバーター」を掲げるようになった1960年代、日本国内ではビッグストアと呼ばれる量販店が台頭し、既製服の需要が急激に増していました。そのような背景の中、タキヒヨーは商社においては必須ではない生産設備をあえて持ち、自ら企画開発した商品を計画的に生産できる機能を備えることで市場における優位性を確立していきます。TFC北陸工場は、高まる国内生産の需要に対応するため1974年に設立され、年間200万枚生産が可能な国内最大級の縫製工場となりました。

ところが、時代と共に衣料品も低コストを追い求める流れが強まり、タキヒヨー自身も中国生産に大きく舵を切りました。その結果、それまでタキヒヨーのものづくりの根幹を担っていたTFC北陸工場の存在意義が大きく揺らぐことになったのです。



1974年設立当時の
TFC北陸工場

TFC北陸工場を取り巻く環境

和装から洋装へ
量販店の台頭



生産設備への投資
TFC北陸工場創業



価格競争の激化
中国生産開始



TFC北陸工場の
新たな価値創造



蹉跌と新たな強みの創出

タキヒヨーの生産の中心が中国へと移っていく中、それまで事業のほぼ全てをタキヒヨーからの受注で賄ってきたTFC北陸工場は大きな岐路に立たされました。

創業以来の逆境に立たされたその時、TFC北陸工場の新たな存在意義の模索が始まりました。

強みの棚卸と再構築

新たな価値創造への挑戦

タキヒヨーからの生産に依存することなく独り立ちするために、TFC北陸工場が取り組んだのは仮説に基づく種まきです。自らが有する強みがどのようなブランドのニーズに合うか分析し、積極的に新規開拓を進めました。その結果、コストは高くなっても品質を守りたいメイド・イン・ジャパンにこだわるブランドからTFC北陸工場のものづくりが有する価値を認められ、安定的な受注を得られるようになったのです。

一方で、過去の蹉跌を繰り返さないためにも常に新たな価値を生み出し続ける必要があることは歴史から見ても必然です。TFC北陸工場は、未来を見据えた新たな価値づくりに挑戦しています。



人的資本経営の一環として 「健康経営宣言」を策定

現在、人材を資本と捉え、その価値を最大限に引き出すことで中長期的な企業価値の向上につなげる人的資本経営が求められるようになっていきます。

当社も、経営理念である「われわれは夢のあるおもしろい企業を創り 心の豊かな社会をめざします」の実現のためには、社員が健やかに、そして働きがいを持つことが何よりも重要であると考えています。

社員のエンゲージメントを高め、一緒に働く仲間たちと「タキヒヨーらしさ」を創り上げていくために、当社は人的資本経営の一環として、健康経営を積極的に推進することを目的に「健康経営宣言」を掲げました。

社員の健康維持・増進に経営的に取り組むことは、企業の活性化や生産性の向上、ひいては業績の改善にもつながります。企業を創るのは人であるとの信念の下、より良い未来のために着実に歩を進めて参ります。

健康課題	取り組み事項
 からだの健康づくり	1. 定期健康診断の受診の徹底。受診率100% 2. 特定保健指導・保健指導の実施率の向上 3. 健康増進活動の実施
 こころの健康づくり	1. 相談窓口利用によるメンタル不調の早期発見 2. ストレスチェックの実施と結果に応じた職場環境の改善 3. 高ストレス者やメンタルヘルス不調者に対するサポート
 働きやすい職場環境づくり	1. ワークライフバランスの推進 2. 適切なマネジメントや業務効率化による総労働時間の短縮

株式の状況

2023年8月末日現在

発行済株式の総数

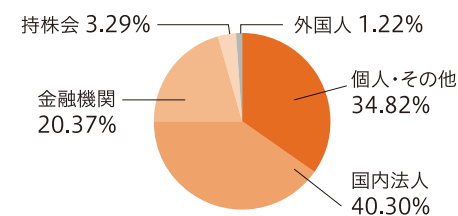
9,500,000株

(うち自己株式279,268株)

株主数

5,971名

所有者別株主分布

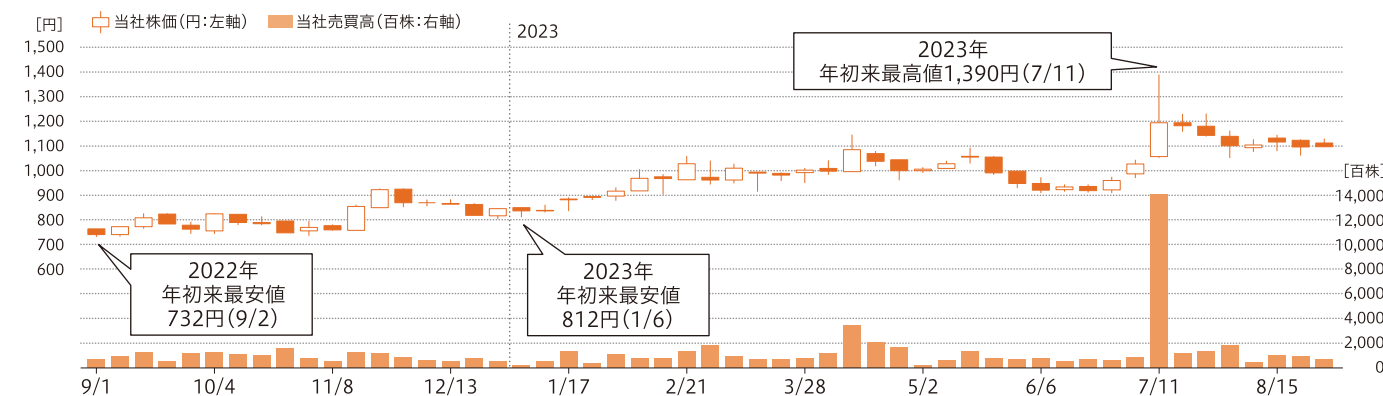


大株主一覧

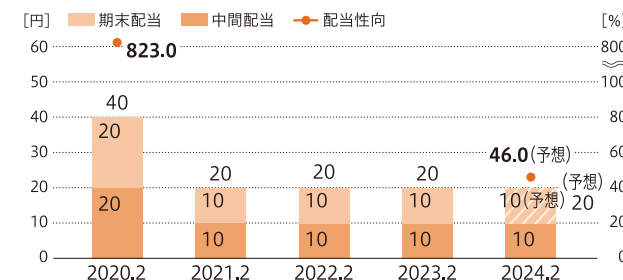
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社キョクヨーホールディングス	2,400,000	26.02
株式会社旭洋興産	420,600	4.56
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	317,000	3.43
株式会社三菱UFJ銀行	258,288	2.80
第一生命保険株式会社	240,000	2.60
タキヒヨー取引先持株会	238,364	2.58
滝 茂夫	223,590	2.42
日本生命保険相互会社	164,992	1.78
SMBC日興証券株式会社	124,800	1.35
三井住友信託銀行株式会社	120,000	1.30

※当社は、自己株式を279,268株保有しておりますが、上記上位10名の株主から除いております。
※持株比率は自己株式を控除して計算し、表示未満の端数を切り捨てて表示しております。

株価・売買高の推移(2022年9月～2023年8月)



株主還元



2024年2月期 配当予想

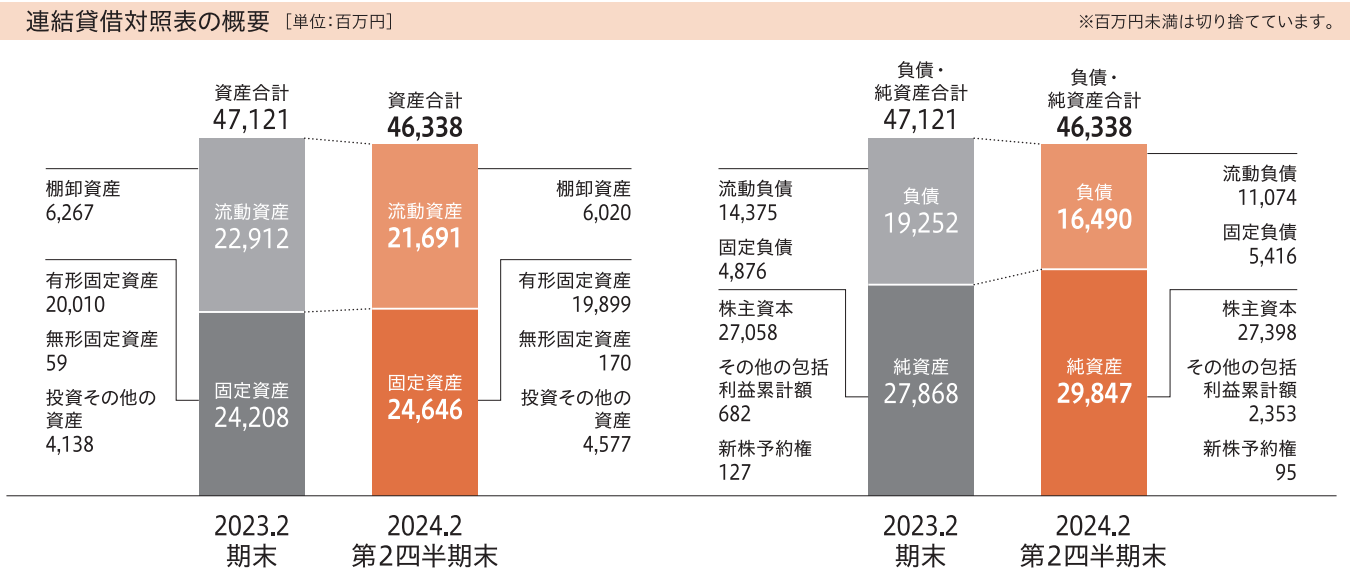
中間 1株当たり **10円** | 期末 1株当たり(予想) **10円**

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題と認識しております。業績の動向、配当性向、配当利回り、市場ニーズに応える商品開発及び将来を展望した事業展開の投資に必要な内部留保等を総合的に勘案して、積極的かつ安定した配当を継続することを基本方針としております。

※当期純利益がマイナスになった期は、配当性向を記載しておりません。

2024年2月期 第2四半期 業績のご報告

連結損益計算書の概要 [単位:百万円]		※百万円未満は切り捨てています。	
	2023年2月期 第2四半期	2024年2月期 第2四半期	
売上高	28,504	26,717	
売上原価	23,129	20,792	
売上総利益	5,374	5,925	
販売費及び一般管理費	5,713	5,755	
営業利益又は営業損失(△)	△ 338	169	
営業外収益	252	128	
営業外費用	33	47	
経常利益又は経常損失(△)	△ 119	249	
特別利益	275	225	
特別損失	539	0	
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△ 383	475	
法人税等	82	76	
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 466	398	



Point 連結損益計算書

売上高

コロナ禍の行動制約の解除やインバウンド需要の回復など
明るい材料が出る一方で、物価上昇により衣料品にかかる
消費者の購買意欲は高まらない状況が続く中、「Revitalize
Plan (黒字体質復活計画)」に基づき、採算性の低い受注を
抑制し、適正利益の確保に努めた結果、売上総利益率は改
善(前年同期比 +3.3pt)したものの、売上高は前年同期比
6.3%減収の26,717百万円となりました。

営業利益

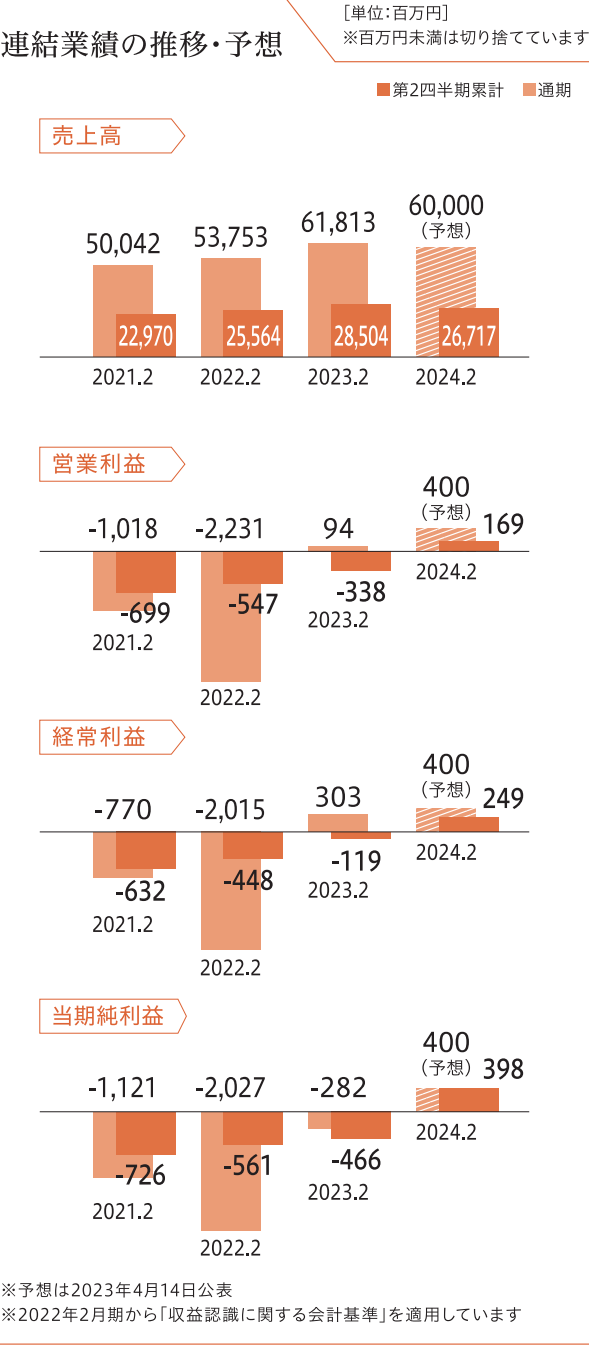
ECの手数料や行動制約の解除に伴う出張関連費用の増加な
どで販売管理費が増加したものの、売上総利益率の改善が
進んだ結果、前年同期比507百万円増益の169百万円とな
り、黒字転換となりました。

四半期純利益

前期に閉鎖を決定した海外拠点の固定資産売却益を特別
利益として計上したことなどにより、前年同期比865百万円
増益の398百万円となり、黒字転換となりました。

Point 連結貸借対照表

総資産は、主として、デリバティブ債権や投資有価証券が
増加した一方で受取手形及び売掛金が減少したことなどによ
り、前期末に比べて減少しました。負債は、主として、支払
手形及び買掛金、借入金が増加したことなどにより、前期末
に比べて減少しました。純資産は、主として、利益剰余金、
その他有価証券評価差額金、繰延ヘッジ損益が増加した
ことなどにより、前期末に比べて増加しました。



会社概要		2023年8月末日現在	
商号	タキヒヨ株式会社		
創業	宝暦元年(1751年)5月		
設立	大正元年(1912年)11月15日		
資本金	36億2,225万円		
役員	代表取締役 社長執行役員	滝 一夫	社外取締役 今井 博
	取締役 専務執行役員	武藤 篤	社外取締役 小笠原剛
	取締役 常務執行役員	板倉 秀紀	取締役(常勤監査等委員) 丹羽卓三
	取締役 執行役員	土屋 旅人	社外取締役(監査等委員) 鷲野直久 社外取締役(監査等委員) 菊間千乃
従業員数	551名〈男253名 女298名〉		(2023年8月末日現在)

株主メモ	
事業年度	3月1日から翌年2月末日
定時株主総会	毎年5月
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会の議決権/2月末日 期末配当金/2月末日 中間配当金/8月末日
株主名簿管理人・ 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告の方法による 公告掲載URL https://www.takihyo.co.jp ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載
証券コード	9982
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場 名古屋証券取引所プレミア市場
株主優待制度	【年1回 2月末 200株以上】 社長こだわりのオリジナルギフトを贈呈 抽選で10名さまに、50万円分の旅行券を贈呈

IRイベントのお知らせ

今回のIRセミナーは、決定次第、弊社ウェブサイトでご案内いたします。

<https://www.takihyo.co.jp/ir/seminar/>

【お問い合わせ先】

広報・IRチーム

tel.052-587-7030

今号の表紙

「タキヒヨーのある暮らし」

2023年7月、タキヒヨー初となる全社合同の総合展示会を開催しました。部署を越えて一つの展示会を創り上げることで、タキヒヨーの総合力を内外に発信する場となり、新たな強みの創出につながりました。



(P4 ~ P5関連情報)

株式の諸手続きに関するお問い合わせ

株式のご所有状況によってお手続き窓口が異なります。

証券会社等の口座をご利用の場合

お取引の証券会社等

「特別口座」に記録されている場合

三井住友信託銀行株式会社
証券代行部

 0120-782-031

※支払期間経過後の配当金に関するお問い合わせは、
三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

最新のIR情報はこちら <https://www.takihyo.co.jp/ir/>



サステナブルサイト
「TAKIHYO FOR GOOD」
<https://takihyo.jp/>



UD
FONT 見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。

